

H31年2月 新聞記事（山陰中央新報）

平成31年2月2日付・山陰中央新報

学部学科		募集 人員	志願 者数	競争 率	二段 倍率	昨年 倍率
<島根県立大学>						
総合政策						
総合政策	3教科型	前	60	54	0.9	10.0
	5教科型	前	60	24	0.4	3.2
総合政策		後	25	25	1.0	11.5
看護栄養						
看護			40	12	0.3	5.7
健康栄養			19	11	0.6	5.0
人間文化						
保育教育			20	4	0.2	4.9
地域文化		前	30	11	0.4	3.4
地域文化		後	10	8	0.8	7.6
短期大学部						
保育			20	81	4.0	5.0
総合文化			20	79	4.0	6.0

大学計
4 大集
県中
両 2 次

出願倍率 前年並み

前期 島大 0.3 倍、鳥大 0.6 倍

山陰両県 4 大学が 1 日、2 次試験出願状況の中間集計（午後 5 時時点、島根大は午前 10 時時点）を発表した。島根大の前期（募集人員 683 人）は 238 人が出願し、倍率は前年同期と同じ 0.3 倍。393 人が出願を済ませた鳥取大の前期（同 695 人）も前年と同じ 0.6 倍で、各大学とも前年並みの倍率となっている。出願は 6 日まで。

（26 面参照）

島根大の前期では、総合理工学部知能情報デザイン学科（同 25 人）が 0.3 倍増の 0.4 倍、法文学部法経学科（同 45 人）が 0.2 倍増の 0.4 倍。開設 3 年目となる人間科学部（同 45 人）は前年と同じ 0.3 倍だった。医学部医学科（同 62 人）は 0.2 倍減の 1.2 倍。

一般枠（同 55 人）は 69 人が出願し、1.3 倍。県内定着枠（同 7 人）は 5 人が出願し、0.7 倍となった。後期（同 195 人）は計 6 学部で 0.4 倍減の 0.8 倍となっている。

鳥根県立大は、2018 年度に開設した人間文化学部地域文化学科の後期（同 10 人）が 0.6 倍増の 0.8 倍となった。

鳥取大の後期（同 228 人）は 0.5 倍減の 1.4 倍。医学部医学科前期（同 65 人）が 1.0 倍減の 0.7 倍、同後期（同 20 人）が 3.3 倍減の 2.1 倍となっている。鳥取環境大は、環境学部前期 B 方式（同 15 人）が 1.3 倍増の 1.4 倍、経営学部前期 B 方式（同 25 人）は 0.5 倍増の 1.1 倍だった。（森山郷雄）

学部学科		募集 人員	志願 者数	競争 率	二段 倍率	昨年 倍率
<島根県立大学>						
総合政策						
総合政策	3教科型	前 60	272	4.5		10.0
	5教科型	前 60	189	3.2		3.2
総合政策		後 25	148	6.0		11.5
看護栄養						
看護		40	63	1.6		5.7
健康栄養		19	44	2.3		5.0
人間文化						
保育教育		20	74	3.7		4.9
地域文化	前	30	100	3.3		3.4
地域文化	後	10	117	11.7		7.6
短期大学部						
保育		20	81	4.1		5.0
総合文化		20	79	4.0		6.0

前期 島大 2.8 倍、鳥大 3.4 倍

2 次試験志願状況まとめ

山陰 4 大学

国立大 2 次試験の出願が 6 日までに締め切られ、山陰両県 4 大学が午後 5 時時点（鳥根大は午後 3 時時点）の志願状況をまとめた。前期の鳥根大は全 6 学部 of 募集人員 683 人に 1914 人が出願し、倍率は前年確定倍率比 0・1 割減の 2・8 倍。鳥取大は 4 学部の 695 人に 2388 人が出願を済ませ、倍率は 0・4 割増の 3・4 倍となった。

（12、13 面に志願状況）
鳥根大は、開設 3 年目となる人間科学部の前期（募集人員 45 人）が 0・3 割減

の 2・8 倍。医学部医学科の一般枠（同 55 人）は 324 人が出願して 5・9 倍。県内定着枠（同 7 人）は 34 人が出願し、4・9 倍となった。

後期は募集人員 195 人に対して 1600 人が出願し、倍率は 5・9 割減の 8・2 倍。前年 19・9 倍だった総合理工学部の物理・マテリアル工学（同 19 人）が 3・6 倍となり、理系学部を中心に下がった。

鳥根県立大は、前年 10・0 倍だった総合政策学部の前期 3 教科型（同 60 人）が 4・5 倍に下げ、看護栄養

学部の看護も 4・1 割減の 1・6 倍となった。開設 2 年目を迎えた松江キャンパス人間文化学部は前、後期計 60 人の定員に 291 人が出願。倍率は前年並みの 4・9 倍となっている。

鳥取大の後期は 228 人に 2342 人が出願し、1・3 割減の 10・3 倍。鳥取環境大は、環境学部の前期 B 方式（同 15 人）が 3・6 割増の 6・1 倍となった一方、経営学部前期 A 方式（同 50 人）が 4・3 割減の 4・8 倍となった。
各大学は 14 日までに確定値をまとめる。

（森山郷雄）

入試の受験状況発表

島根県立大短大部

島根県立大短期大学部が 10日、2019年度一般入試の受験状況を発表した。総合文化学科（募集人員20人）は79人が受け、受験倍率は前年より1・1倍低い3・95倍だった。80人が挑んだ保育学科（同20人）は0・2倍減の4・0倍だった。

試験は9、10の両日に実施した。合格発表は22日午後1時。

公立大学 両県 4
山陰両県 4 大学の 2 次試 までに出そろった。前期は 志願者数の確定値が 14 日 鳥根大が全 6 学部で 683

島根大 2.8 倍、鳥取大 3.7 倍 2 次試験志願者が確定

人の募集人員に対して 1903 人が出願し、倍率は前年比 0.1 割減の 2.8 倍。鳥取大は全 4 学部の 695 人に 2551 人が出願を済ませ、0.7 割増の 3.7 倍となった。

山陰国・公立大学の志願状況

確定

学部学科	募集人員	志願者数	競争率	二段倍率	昨年倍率
<鳥取大学>					
地域					
地域	地域創造コース	36	82	2.3	2.0
地域	地域創造コース	10	164	16.4	13.2
地域	人間形成コース	38	83	2.2	2.3
地域	人間形成コース	13	137	10.5	10.7
地域	国際地域文化コース				
地域	国際地域文化コース	30	103	3.4	3.3
地域	国際地域文化コース	13	103	7.9	12.1
医					
医	看護学専攻	65	454	7.0	8.7
医	看護学専攻	20	294	14.7	18.8
生命科学					
生命科学	看護学専攻	30	83	2.8	3.2
生命科学	看護学専攻	5	51	10.2	8.4
保健	看護学専攻	45	197	4.4	2.0
保健	看護学専攻	5	143	28.6	11.2
保健	検査技術科学専攻	20	123	6.2	1.6
保健	検査技術科学専攻	10	71	7.1	11.8
工					
機械物理系					
機械物理系	前後	74	245	3.3	2.5
機械物理系	前後	37	328	8.9	10.9
電気情報系					
電気情報系	前後	82	381	4.6	3.0
電気情報系	前後	31	404	13.0	13.8
化学バイオ系					
化学バイオ系	前後	54	120	2.2	2.1
化学バイオ系	前後	41	318	7.8	8.6
社会システム土木系					
社会システム土木系	前後	81	277	3.4	2.7
社会システム土木系	前後	18	305	16.9	15.3
農					
生命環境農					
生命環境農	前後	110	232	2.1	1.4
生命環境農	前後	25	224	9.0	6.2
共同獣医					
共同獣医	前後	30	171	5.7	3.3
<鳥取環境大学>					
環境					
環境	(A方式)	60	266	4.4	3.3
環境	(B方式)	15	114	7.6	2.5
環境		10	107	10.7	16.5
経営					
経営	(A方式)	50	285	5.7	9.1
経営	(B方式)	25	220	8.8	7.1
経営		10	323	32.3	31.8
<鳥根大学>					
法文					
法文	前後	45	99	2.2	3.4
法文	前後	25	180	7.2	12.9
社会文化					
社会文化	前後	27	97	3.6	2.6
社会文化	前後	14	168	12.0	19.1
言語文化					
言語文化	前後	32	63	2.0	3.1
言語文化	前後	15	126	8.4	10.9
教育					
学校教育課程Ⅰ類	前後	60	104	1.7	1.4
学校教育課程Ⅰ類	前後	10	69	6.9	17.8
学校教育課程Ⅱ類					
健康・スポーツ専攻	前	7	29	4.1	3.4
<鳥根県立大学>					
総合政策					
総合政策	3教科型	60	345	5.8	10.0
総合政策	5教科型	60	220	3.7	3.2
総合政策		25	182	7.3	11.5
看護					
看護	看護	40	119	3.0	5.7
健康栄養					
健康栄養	健康栄養	19	65	3.4	5.0
人間文化					
人間文化	人間文化	20	98	4.9	4.9
保育教育					
保育教育	保育教育	30	122	4.1	3.4
地域文化					
地域文化	地域文化	10	146	14.6	7.6

◇表の見方◇

- 「学部名」
- 「試験日程の区分」
前=前期日程（試験開始日 2月25日）、
後=後期日程（3月12日以降）
- 「二段階選抜」
数字は募集人員に対し、選抜を実施する
予定倍率
- 表は大学学部等の一般入試が対象。
推薦などの特別入試や別日程で独自に試験
を実施するものは含まない

して 4.2 倍となった。医学部医学科（同 62 人）は前年並みの 6.0 倍。このうち、県内定着枠（同 7 人）は 36 人が出願して 5.1 倍だった。

後期（195 人）の志願者は前年より 1116 人少ない 1641 人で、倍率は 5.7 割低い 8.4 倍。医学部を除く 5 学部の計 10 学科で前年倍率を下回った。

鳥根県立大は、総合政策学部総合政策学科の 3 教科型入試前期（同 60 人）が前年より 4.2 割低い 5.8 倍。2018 年度新設の人間文化学部の保育教育学科（同 20 人）は前年と同じ 4.9 倍だった。

鳥取大の前期は医学部保健学科の看護学専攻（同 45 人）が 2.4 割増の 4.4 倍。後期（同 228 人）は 2542 人が志願し、0.5 割減の 11.1 倍だった。鳥取環境大の前期は、環境学部（75 人）が 2.0 割増の 5.1 倍、経営学部（同 75 人）が 1.8 割減の 6.7 倍となった。

前期試験は 25 日から始まる。（森山郷雄）

新たに3項目数値目標

県立大
中期計画 県内入学生50%超など

県が25日の県議会総務委員会（池田一委員長、9人）で県立大（本部・浜田市野原町）の第3期中期計画（2019～24年度）の案を示した。2024年度時点の数値目標として、入学者に占める県内学生の割合50%以上（17年度実績46・4%）など3項目を新たに掲げた。

他の2項目は、県内就職率50%以上（同48・9%）と、海外からの受け入れ学生数年間100人以上（同77人）を設定した。

また、第3期中期計画の期間中の収支計画で、運営費交付金や授業料などで210億4400万円の収入を想定する一方、人件費や教育研究経費などで213億4300万円の支出を見込んだ。不足分の2億9900万円は、第2中期目標（13～18年度）の期間から繰り越した積立金を取り崩す。

このほか、21年度の浜田キャンパスでの地域政策、国際政策両学部（いずれも仮称）の新設などを盛り込んだ案に対し、委員から異論は出ず、県は3月にも大きな変更なく認可する見通し。
（高橋利明）

一般入試73人合格 実質倍率は2.18倍

島根県立大短大部

島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）が25日までに、2019年度の一般入試合格者を発表した。受験者数を合格者数で割った実質倍率は2・18倍で、両学科ともに前年度より下がった。

2学科とも募集人数は20人。保育学科は受験者80人に対して合格者33人、総合文化学科は79人が受験して合格者は40人だった。実質倍率は保育が前年度比0・29^割減の2・42倍、総合文化が1・18^割減の1・98倍だった。